

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ ガソリンカー廃線跡 遺構を訪ねる
(塩江駅～御殿場トンネル)

講師 藤澤 保 (安原文化の郷歴史保存会 顧問)

日時 令和2年12月6日(日)



共催

高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

目次

1	ガソリンカーについて	・ ・ ・	3
2	第五香東川橋梁跡	・ ・ ・	13
3	岩部八幡神社	・ ・ ・	13
4	岩部トンネル	・ ・ ・	15
5	山田蔵人墓地	・ ・ ・	16
6	第三香東川橋梁跡・第四香東川橋梁跡	・ ・ ・	17
7	御殿場トンネル	・ ・ ・	18

1 ガソリンカーについて

明治末期に宇高航路が開設されて、四国の玄関高松に人が集まるようになって、高松と門前町琴平を短絡する鉄道建設の機運が高まり、県内の有力者大西虎之介や、景山甚右衛門らが中心となって同区間に四国初の本格的な高速電車として瓦町〜琴平間を昭和二年（一九二七）全線開通した。

翌年、琴平電鉄は阿讃国境と塩江温泉郷開発のアクセスのため、昭和三年（一九二八）八月二十一日に塩江温泉鉄道（株）を設立し鉄道の敷設を開始した。着工後昭和四年（一九二九）十一月十二日に仏生山〜塩江間（十六・一キロメートル）を開業した。社長は琴平電鉄の社長である大西虎之介が兼務した。この鉄道は非電化の鉄道では唯一広軌を採用した内燃鉄道であった。琴平電鉄が広軌であったため、琴平電鉄からの貸車直通を念頭においてであったが直通運転は実現されなかった。開業に合わせて新造された車両五輦は川崎車輛が手がけた初のガソリンカーであった。以後廃線までこの五輦のみで営業された。塩江温泉では、琴平電鉄が塩江温泉（株）を設立し、演芸場付きの温泉旅館を経営した。

専属の少女歌劇団を養成して「四国の宝塚」として売り出し、定期的に催物を企画して運賃割引を行うなど積極的に営業活動を行なった。しかし当時の経済不況もあり経営は苦しく塩江温泉鉄道は昭和十三年（一九三八）七月六日付けで琴平電鉄に吸収合併され、琴平電鉄塩江線となった。

しかし、琴平電鉄に吸収された後も営業好転の目途がたたず、燃料であるガソリンの統制が厳しくなるなど営業がますます困難となり、塩江線は開業からわずか十二年後の昭和十六年（一九四一）五月十日に廃止された。廃止後、レール等の鉄道施設は台湾製糖株式会社に売却された。車両は満州に渡り、新京（現在の長春）市電となった。

ガソリンカーは昭和三年（一九二八）川崎車輛製の半鋼製片ボギー式ガソリンカーで、自重六・五トン、定員四十名、米国アンドリュース・アンド・ジョージ社製三十八馬力ガソリン機関を搭載、長さ八メートル強、幅二・五メートル強、片側二ドア。ガソリンカーとしては前進・後進のできる最初の車両であったという。総工費は七十五万円。延長十哩一分（じゅうまいいちぶ＝16.093443 キロメートル）である。鉄道賃金は、区間制度

にして一区五銭。仏生山く塩江間を十区に分けられてあるが、二区以上は一区四銭の割合で、仏生山く塩江までは四十銭であつた。

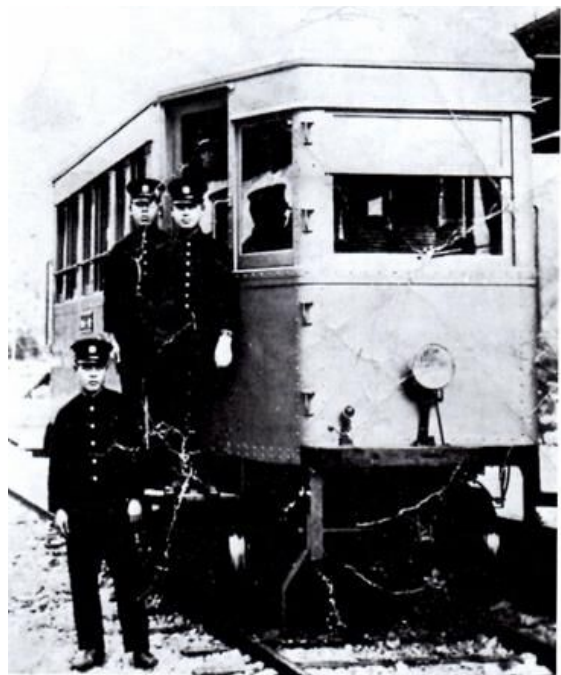
廃止後七十九年となる現在でも、各地に廃線跡遺構が残っている。仏生山駅から香川町浅野にかけては市道となっており当時の面影はないが、路線がガソリンカーであつたため「ガソリン道」として親しまれている。香川町浅野から塩江町安原下までは、香東川自転車道となっており、多くのトンネルや橋脚などの遺構が残っている。

路線営業距離は十六・一キロメートル。駅数は、仏生山・船岡・浅野・伽羅土・川東・岩崎・鮎滝・関・安原・中村・岩部・塩江の十二駅であつた。開業直後の一九三〇年の時刻表は、仏生山発午前五・十四く午後九・五十四、塩江発午前六・〇四く午後一〇・四十四で、一日二十一往復、五十分ごとに運転されていたが、その後二十五分ごとにし、ことでん全電車に接続もされたがあまりサービスの効果もなく、合併後再び五十分ごとに変更された。一九三〇年度が最高の輸送実績でその後は年々低下していった。一九三〇年当時の全線所要時間四十二分、運賃四十銭、ガソリンカーでほとんど一輛での運転であつた。

鉄道建設に伴って沿線開発と旅客誘致のため、昭和三年十一月二十六日に塩江温泉(株)が設立され、旅館「花屋」直営の「温泉館」が花屋の東隣に開業した。塩江温泉鉄道の開通と同じ日に開業した。この建物は二階建てで、一階に浴室・休憩室・売店・遊戯場・理髪室などがあり、二階には演芸場が造られ、専属の少女歌劇が年中無休で数年間開演された。「四国の宝塚」として人気を集めていた。



塩江温泉鉄道の乗組員とガソリンカー



昭和5年 塩江駅での
運転手・車掌とガソリンカー



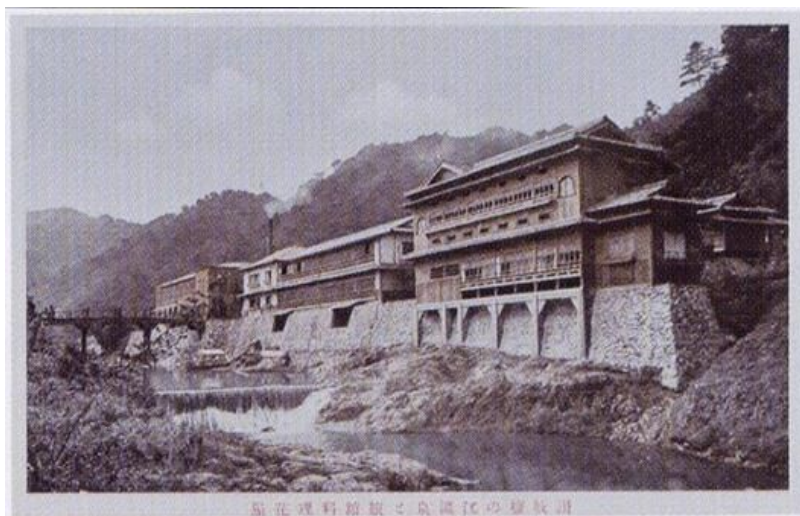
通学の学生たち

その後、昭和十五年少女歌劇は消え、昭和十八年花屋は幕を閉じた。同年八月二日、県の管轄となった花屋は「健民修練所」として体質の弱い青年を集め修練が行われていた。昭和二十一年花屋旅館を復活し塩江温泉の伝統を活かして観光による塩江の発展を図り観光客は次第に多くなった。その後温泉館は、昭和二十五年頃取り壊される。そして、昭和四十九年、花屋は休業中の失火によって焼失し、一世を風靡した旅館「花屋」は幕を閉じた。

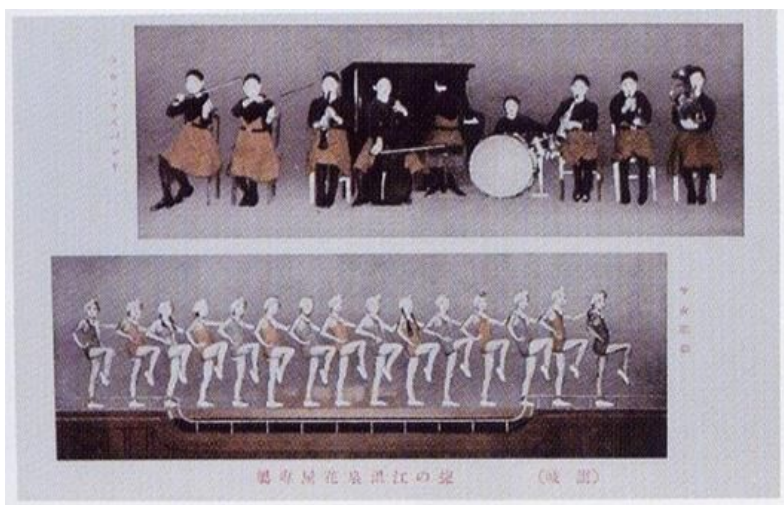
ガソリンカーは、通称「ガソリン」と呼ばれ、またマッチ箱ともいわれ、ガツタタンガツタタンと豪快な音を響かせて走っていたという。一車輛の定員は四十人乗りだが、菊人形などが行われる観光シーズンには一〇〇人近く乗ることもあった。学生定期は五割引きでいずれも六ヶ月定期として発行していた。主に、朝は高中（現高松高校）や高商、香川高校（現高松南高校）に通う学生たちで満席だった。一車線のため、上りと下りの交替する場所が必要であり、鮎滝で行っていた。四輛を使用するときには、運行回数が多いので浅野や中村でも交替をしていた。普通四人が運転業務にあたっていて、三往復運転すれば一往復分休憩するというようになっていた。運転台は車輛の前後にあった。エンジンの

調子が悪く、日によっては二〜三回発車の時にエンジンがかからないということもあった。そんなときには、お客に頼んで数人で押してもらったりした。また上り坂の時にはいったん下り坂の方へ押してエンジンをかけ、再び上り坂の方へ進行したりもした。ワイパーも手動で、雨の日には片手で操縦しながら同時にワイパーも動かしていた。

廃止後、レール等の鉄道施設は台湾製糖株式会社に売却された。車輛のガソリンカーは満州に渡り、一部改造され新京（現在の長春）の市電として使用された。



料理旅館 花屋



**花屋専属の少女歌劇と
少女ジャズバンド**

※昭和五年七月一日〜十二月三十一日 半期営業報告書 運輸成績表

営業日数 一八四日

走行距離 一〇四四三五里八分（約四一七七四三キロメートル）

乗客人員 一五八八七六人 一ヶ月〜約二六四七九人 一日平均〜八六四人

※昭和十一年当時は、米一俵が十一円八十銭。うどん一杯・油揚げ五枚が五銭。
ほかに三越の「うな重」は五十銭していたという。



昭和 10 年頃塩江駅とハイヤー（フォード型）
ハイヤー料金は、塩江地区内〜三十銭均一。
「虹の滝」往復は待ち時間込み二円であった。



新京を走る市街電車（昭和十八年一月）
塩江温泉鉄道のカソリンカーは左端の 41 号車。
その右は、もと大阪市電。
三両目以降右端までは大連から譲り受けた電車。

☆ガソリンカー復元プロジェクトについて

二〇一八年度に塩江町地域おこし協力隊員と若い人たちが中心となって、興味ある人は誰でも参加できるという「ガソリンカー復元プロジェクト」がスタートした。当初香川高等専門学校の学生有志五人が参加し、ガソリンカーの模型を作成する「模型班」と、廃線跡の遺構を散策するためのガイドマップを作成する「マップ班」に分かれて行動を開始した。

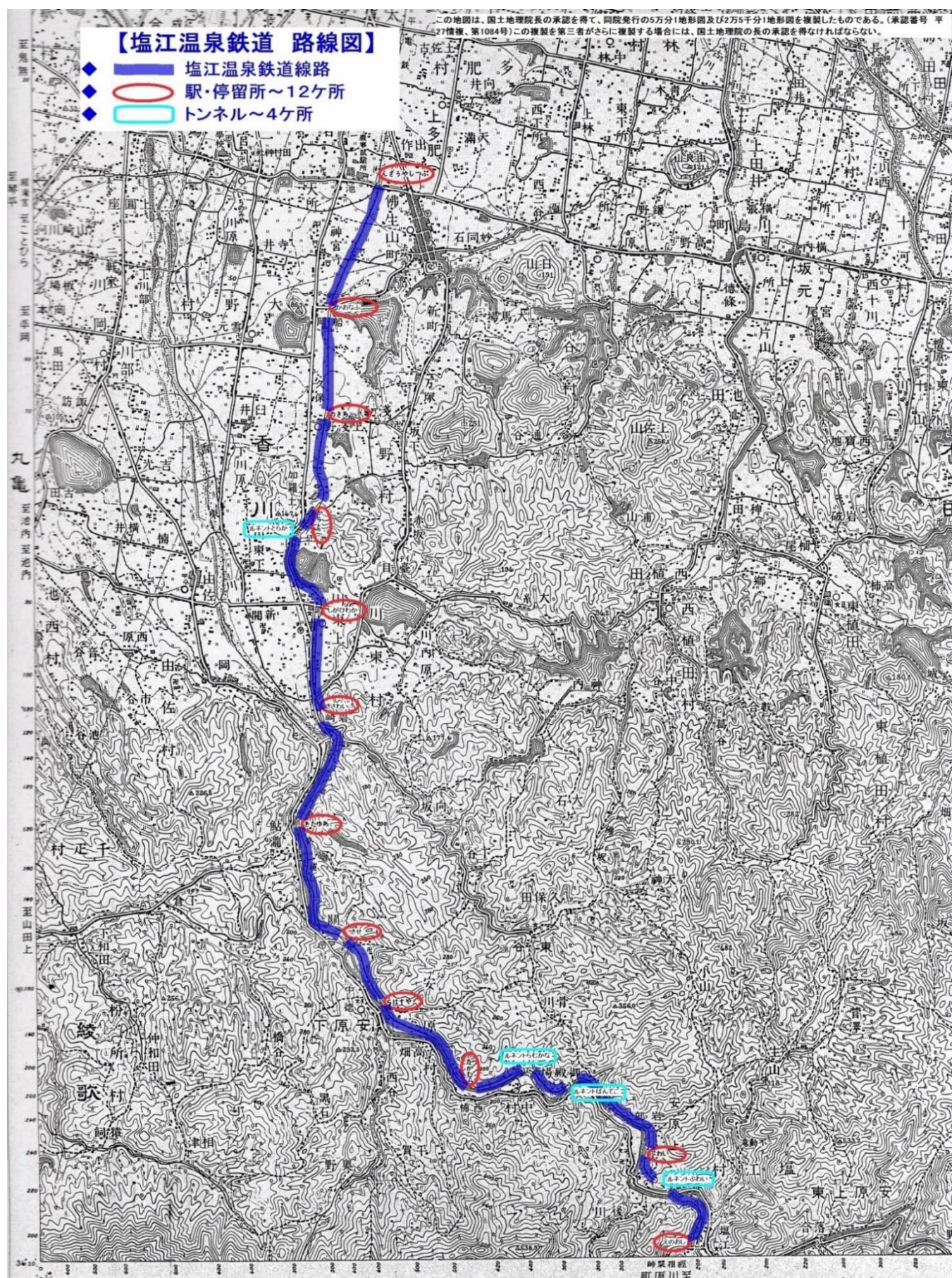
模型班は二〇一八年度中に「ガソリンカーの模型の作成」をする目標だったが、ガソリンカーの図面がない。廃線後七十七年も経た現在まで図面の存在は知っている者がいなかった。調査の結果、埼玉県の鉄道博物館に設計図らしきものがあるということがわかった。早速、高専生が現地に飛び写真撮影をし、当時のガソリンカー製造元である川崎重工に問い合わせ、正式な発見となる。

まずは、香川大学の先生方に協力を依頼し3Dモデルを完成させた。さらに、当時の図面を元に香川大学創造工学部の学生たちによって新たに復元図面が作成された。また、マップ班は日本語版と英語版の二種類のガイドマップを作成し無料配布している。

そして、二〇一九年度には、木製の骨組みで原寸大アート作品を完成させ八月に塩江美術館の企画展で展示された。ガソリンカーの窓には塩江中学生が塩江町の風景を描いた「ちぎり絵」の作品を貼り付けた。

二〇二〇年度は塩江温泉鉄道の「1/80 サイズのジオラマ」作成に取り組んでいる。今後は、ガソリンカーの台車部分の製作も併せて全体の実物大を完成させること。トンネルの内部で「プロジェクションマップ」などのイベントを計画している。

昭和 8 年 12 月 28 日発行 塩江温泉鉄道 路線図【全体】



2 第五香東川橋梁跡

塩江温泉鉄道最後の橋。当時は三脚の橋梁で橋を支えていたが、「ホタルと文化の里公園」の工事に伴い、西岸寄りの二脚は解体された。この橋を渡るとまもなく終点の塩江駅に着する。「次はしおのーえ、しおのーえ」といった独特のアナウンスだったそうだ。

3 岩部八幡神社

岩部八幡神社の創始は養老年間（七一七～七二四）あるいは天平年間（七二九～七四九）と言われている。古くは現社地の北方に鎮座していたが、後に現社地の北西山麓に遷座したと伝わり、その旧跡と考えられる礎石が素婆俱羅社前に見られる。その後、山上に遷座し明徳三年（一一三九二）には細川頼之によつて社殿の修築がなされた。

文明十三年（一四八一）川田景安が川田八幡を阿波国より迎えて当社に合祀した。是によつて当社は安原三か村の氏神としてその尊敬を深め益々隆昌したのである。その後天平

のころ（一五七〇～一五九一）戦国の時代にして幾多の兵火により社殿が消失し、一時荒廃したが万治二年（一六五九）高松藩主松平頼重公が再築した。延宝三年（一六七五）池田主馬秀重祠官となり社殿を改築し、以降藩主松平公の命により唯一神道として奉仕するようになった。寛延四年（一七五二）現在の石段が造られる。石材は御影石であり大事業であつた。後に塩江村・上西村・安原村の氏神とし尊敬を深め、明治四十年十月二十四日神饌幣帛料共進神社に指定された。古くより氏子の人々はもとより各時代の武将・大名より厚く崇敬され武運隆昌の神と崇められてきた。

※岩部八幡神社のイチヨウ（昭和四十六年四月三十日 香川県指定天然記念物指定）

大イチヨウは樹齡約六百年といわれ、東側を雄木、西側を雌木と呼ぶが、いずれも雌株で実（ギンナン）をつける。樹高は三十三メートルで、幹周は東側が九メートル、西側が六メートルである。秋には美しく黄葉し遠くからもその雄大な姿を見ることが出来る。木の幹や枝から垂れ下がる気根は古木の貫録をたずさえ、母乳の少ない母親がこれに触るとよく出るようになるという言い伝えがある。

また、落葉すれば境内は艶やかな黄色の絨毯に包まれ、一層神々しく姿を変えて私たちの目を楽しませてくれている。

4 岩部トンネル

全コンクリート造。約一八一・八メートル、幅四・四メートル、高さ四・二メートル。待避所が左右交互に三カ所設けられている。

入口に井戸があるが、この井戸は廃線後に掘られたもので、この辺りにはずっと昔から泉が湧き出ており、そこから岩部八幡神社境内入口の階段脇のタンクに水を引き、このタンクから馬場地区の各家庭にパイプで水を送り飲料水として利用していた。香東川向かいの西地辺りまでも送っていた。馬場地区の大切な水源だったが、現在では各家庭に市営の水道が敷設されている。

掘削方法は、「低設導坑先進上部半断面掘削方法」で掘られている。北側坑口手前には、のみとハンマーの手作業によって花崗岩を切り開いた法面が残っている。

廃線後、岩部トンネルには爆弾が隠されていた。昭和二十年、林飛行場からたくさんの爆弾が木箱に入れられトンネルに運び込まれ立ち入り禁止にして三名の兵隊さんが管理していたという。



トンネル開通後の記念写真

5 山田蔵人墓地（弓の名人 山田蔵人高清）

讃岐には戦国時代、別子八郎と山田蔵人という弓の名人が二人いた。山田蔵人は、別子八郎から三十年ほどのちに活躍し、青峰山に出没する牛鬼を退治し根香寺に二本の角を奉納したという伝説が残されている。

豊臣秀吉が朝鮮半島に出兵した時に、讃岐国を治めていた生駒親正の軍に従って活躍し、その際に十三仏と涅槃像の巻物を得て帰ったが、現在これらは最明寺の宝物となっている。また、ある時生駒親正から青峰山の牛鬼退治を命じられたので、高清は根香寺の本尊千手観音に七日間の祈願を行い、七日目の夜明けに牛鬼を見事に仕留めた。その後、高清は

牛鬼の菩提を弔うため、二本の角を切り取り、これに十五俵の米を添えて根香寺に寄付をした。その時の二本の角と怪物の姿を描いた絵が今なお当山に残っている。

山田蔵人高清の墓は、長さ二間、幅二尺、厚さ八寸心柱の墓が建てられ、正面に梵字で「阿字」と「光明真言」および「圓密院弓清居士 文禄三甲午年（一五九四）二月二日歿」と彫られており、裏に「弓天下 山田蔵人高清墓所」と刻まれています。墓の家紋は丸に二の二つ引両紋。

すぐ傍らに、山田蔵人の屋敷跡と蔵人が観賞用に植えたというウバヒガンの枯死跡が残っている。

6 第三香東川橋梁跡・第四香東川橋梁跡

第三香東川橋梁跡は御殿場トンネルよりさらに北にあり、川が九十度折れ曲がっている部分に山を迂回するように設置された橋梁跡。二基現存している。険しい崖で線路を敷設

できなかったため、山際に橋梁を建設し、敷設した。そのため当時は列車が川に追い出すように走行しており、臨場感のある区間であった。

第四香東川橋梁跡は、第三香東川橋梁跡崖と同様、避けるように山際に建設された橋梁跡。六基現存している。橋脚の北西部、中村トンネル側に橋台の遺構も観察することができる。

7 御殿場トンネル

現在、市道として利用されている。電燈が取り付けられ路面は舗装されている。全コンクリート造。開業当初の名称は「小屋谷トンネル」。長さは約六十六・七メートル。鉄道のトンネルである証明となる待避所が中間地点に一ヶ所ある。



第四香東川橋梁
鉄橋を走るガソリンカー

☆参考文献

- 令和元年 『塩江温泉鉄道 遺構めぐり』 『ガソリンカー復元プロジェクト』
令和元年 『塩江温泉鉄道 廃線跡の遺構めぐり』 塩江地区コミュニティ協議会
昭和六十一年 『鉄道ファン七月号』 交友社
平成八年 『新修 塩江町史』 塩江町
平成十四年 『かがわの鉄道いま・むかし 塩江温泉鉄道』 法兼高政
昭和五年 『第五回営業報告書』 塩江温泉鉄道株式会社

12月6日（日）復路

ことでんバス塩江線

高松方面 御殿場(11:54 発)→瓦町(12:44 着)→高松駅(12:57 着)

塩江方面 御殿場(11:31 発)→塩江(11:37 着)

※車を駐車場に停めた方は塩江方面のバスに乗車して戻れます※

「ふるさと探訪」に参加される皆様へ

- 1 行事中はマスクを着用し、三密(密集・密接・密閉)の環境を避けましょう。**
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
体調が悪くなったときはスタッフに伝えてください。**
- 3 交通ルールを守り、交通安全を心掛けましょう。
必ず歩道を歩き、歩道がないところでは道路の端を
一列で歩きましょう。**
- 4 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。**
- 5 マナーを守り、他人に迷惑がかからないように
気を付けましょう。**